

八戸 9月号 レポート

平成29年8月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	ユネスコ登録元年 八戸三社大祭 ～特別な一日喜び共に～
(2)	市制88周年記念「八戸みなと88カ所巡り」～八戸港の魅力 海から満喫～
(3)	「子ども会の日市民ラジオ体操祭」開催 ～南部弁バージョンに笑顔～
(4)	新美術館の市民向け“サロン”「コベヤ」 八日町に開設
(5)	市制施行88周年・八戸三社大祭ユネスコ無形文化遺産登録記念 花火大会開催
(6)	八戸市 18年度中に全防犯灯をLED化へ

【産業】

記事	概要
(7)	ウミネコのふん模様化「フンてめぐい」いかが？
(8)	来春卒業の青森県内高校生 求人1.78倍で過去最高
(9)	八戸、盛岡の45店で食の祭典「グルメツアーズ」開催

【地域】

記事	概要
(10)	ご当地イカ料理コンテスト。最優秀賞は小和田さん（青森市）
(11)	職場華やかに 八戸で「浴衣デー」
(12)	是川縄文館で工大二高生がボランティアガイド 来場者にも好評
(13)	豪華寝台列車「四季島」 八戸駅に初お目見え
(14)	全国学力テスト 青森県の小学校 全教科で平均上回る
(15)	2016年度監査大賞 八戸市の公認会計士・倉成さんが受賞

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	29年ぶりの八戸出身関取 大成道が凱旋
(17)	八戸拠点のロックバンド Re:Turn (リターン) 全国デビュー
(18)	JOC全日本高校ボウリング選手権 工大一高3年の西山さん優勝
(19)	スポーツライミング全国大会小学生以下の部 関川さん（湊小4年）優勝
(20)	佐々木則夫元なでしこ監督のサッカー教室開催 ～世界レベルの技術伝授～
(21)	元八戸市陸上競技協会会長の工藤さん「安藤百福記念章受章」
(22)	八戸の魅力伝える「馬淵川讃歌」 八戸市の音楽家・東さんが作曲

【行政】

記事	概要
(1)	<p>ユネスコ登録元年 八戸三社大祭 ～特別な一日喜び共に～</p> <p>昨年12月にユネスコの無形文化遺産に登録され、初めて迎えた今年の八戸三社大祭。5日の記念祭を除き、期間中が平日となる日程だったものの、入り込み数は後夜祭が始まった2003年以降で最多の102万人を記録した。5日には「八戸市市制施行88周年・ユネスコ無形文化遺産登録記念祭」が市庁前市民広場で開かれ、17台のきらびやかな山車と郷土芸能のステージが披露された。終幕の午後8時が近づくと来場者も含めて全員で万歳三唱し、会場全体で無形文化遺産登録の喜びを分かち合った。</p>
(2)	<p>市制88周年記念「八戸みなと88カ所巡り」～八戸港の魅力 海から満喫～</p> <p>八戸市の市制施行88周年を記念したイベント「八戸みなと88カ所巡り」が5日、八戸港で開かれた。市の主催で、八戸港振興協会や国土交通省東北地方整備局八戸港湾・空港整備事務所などが共催。同港には岸壁や防波堤といった港湾施設が88カ所あることに着目し、市制施行88周年に関連付けて企画した。家族連れを中心に市民約400人が観光遊覧船などに乗船。夏の潮風を浴びながら、蕪島や工場地帯などを巡って八戸港の魅力に触れた。</p>
(3)	<p>「子ども会の日市民ラジオ体操祭」開催 ～南部弁バージョンに笑顔～</p> <p>八戸市市制施行88周年を記念した「子ども会の日市民ラジオ体操祭」が8月8日、市内の小学校グラウンドや公園など約30カ所で開かれた。朝早くから合わせて千人以上が参加し、地元タレントの十日市秀悦さんによる南部弁のナレーションでラジオ体操第一に合わせて体を動かし、八戸のメモリアルイヤーを祝った。市立湊小に集まった約260人の児童や保護者らは、十日市さんから繰り出される、いつもとは違った南部弁バージョンのラジオ体操のナレーションに笑顔を見せながら体を動かしていた。</p>
(4)	<p>新美術館の市民向け“サロン”「コベヤ」 八日町に開設</p> <p>八戸市は8月8日、市が整備する新美術館建設に向けた取り組みを発信する拠点・はちのへまちなかアートラボ「コベヤ」を、八日町のダイヤビル1階に開設した。建設工事期間中の市新美術館建設推進室の事務室とするほか、作品の展示や市内外のアート活動の紹介、市民勉強会などを予定しており、市民が気軽に訪れる“サロン”を目指している。市美術館は今秋から解体工事が始まり、2020年3月に完成予定。</p>
(5)	<p>市制施行88周年・八戸三社大祭ユネスコ無形文化遺産登録記念 花火大会開催</p> <p>八戸市の市制施行88周年と、八戸三社大祭のユネスコ無形文化遺産登録を記念した「第37回八戸花火大会」が8月20日、館鼻岸壁で開かれた。「8」をかたどった花火のほか、音楽や三社大祭の囃子に合わせたプログラムもあり、約5千発の花火が夜空を鮮やかに彩った。この日の八戸は、前日までの雨がやみ、緩やかな風も吹いてますますの花火見物日和となった。主催の大会委員会によると、例年より多い8万8千人が会場を訪れたという。</p>
(6)	<p>八戸市 18年度中に全防犯灯をLED化へ</p> <p>八戸市は、市内に設置する約2万2千基の防犯灯を、2018年度末までに全て発光ダイオード(LED)化する方針を明らかにした。市が資金調達力や技術力を有する民間事業者へLED設置と維持管理を委託する「エスコ事業」を導入し、蛍光灯や水銀灯からの早期切り替えを図る。事業者への委託料は省エネ化による電気料金の削減分で賄う仕組みで、業者が順調に決まれば、経費を削減しながら早期のLED化を図る効果的な取り組みが実現する。</p>

【産業】

記事	概要
(7)	<p>ウミネコのふん模様化 「フンてぬぐい」いかが？</p> <p>ウミネコのふんをモチーフにした模様を取り入れた商品を展開している八戸市のフリーデザイナー高坂真さん(38)が、新たに「Fun Tenugui (フンてぬぐい)」を制作し、市内や久慈市などで販売している。高坂さんは2009年に千葉県から地元・八戸にUターン。ウミネコの繁殖地である蕪島の地面を見て、ふんが地域ブランドの資源になるのではと考え、デザインを通じた地域振興計画「Fun Club (フンクラブ)」を開始した。これまでにノートやレターセット、ステッカーを商品化。第4弾となる手拭いは、グレー、イエロー、ピンクの3色。首などに巻けるほか、バッグやブックカバーとしても活用できる。価格は税込み1296円。</p>
(8)	<p>来春卒業の青森県内高校生 求人1.78倍で過去最高</p> <p>青森労働局が公表した2018年3月に青森県内の高校を卒業予定の生徒に対する求人・求職状況(7月末)によると、県内の求人数は4014人(前年同月比9.3%増)、求人倍率は1.78倍(0.22ポイント増)だった。少子化に伴って就職希望者が減少する一方、全国的な人手不足を背景に若い労働力を求める事業所が増加傾向にあり、求人倍率は統計が残っている1994年3月卒以降、過去最高となった。</p>
(9)	<p>八戸、盛岡の45店で食の祭典「グルメツアーズ」開催</p> <p>八戸市と盛岡市の飲食店45店舗が参加する食の祭典「The Best ofグルメツアーズ」(八戸商工会議所主催)が9月1日から10月31日まで開催されている。地元の食材に親しみ、新たな飲食店を開拓してもらうのが目的で、今年は30回目の節目。八戸の38店と盛岡の7店が参加し、2カ月間、地場産品を用いた期間限定メニューを統一料金で提供する。期間中、利用客が対象メニューの味付けや接客、店内の雰囲気などを評価して集計し、最終的に優秀店を表彰する。関係者は「八戸と盛岡の両市を行き来し、新たな飲食店を知るきっかけにしてほしい」とPRしている。</p>

【地域】

記事	概要
(10)	<p>ご当地イカ料理コンテスト。最優秀賞は小和田さん(青森市)</p> <p>「第4回ご当地イカ料理コンテスト」(主催・イカの街はちのへ連絡協議会)の最終選考会が10日、はっちで開かれ、最優秀賞に青森市の主婦小和田慶子さん(75)の「夏限定!イカ冷製パスタいなり」が選ばれた。県内外から79作品の応募があり、書類審査で絞った25作品から審査員が入賞を最終選考した。小和田さんの作品は、ゆでたパスタとイカに夏野菜を加え、マヨネーズとからしで味を調えて油揚げに詰めた。昨年は優良賞だった小和田さんは「とにかく変わった料理を作りたい。料理コンテストに応募するのが趣味なのでうれしい」と喜びを語った。</p>
(11)	<p>職場華やかに 八戸で「浴衣デー」</p> <p>八戸市中心街の事業所や行政機関で8月10日、「浴衣デー」が催された。協力団体の職員や従業員が浴衣姿で業務に臨み、職場が華やかな雰囲気包まれた。中心街のにぎわい創出に向け、デーリー東北新聞社と八戸中心商店街連絡協議会が「八戸納涼盆踊り大会」に併せて実施する「浴衣で街に繰り出そう」キャンペーンの一環。八戸市庁では、市民課や介護保険課などで窓口業務の職員ら約30人が浴衣を着て業務に当たった。</p>

(12)	<p>是川縄文館で工大二高生がボランティアガイド 来場者にも好評</p> <p>八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館で開催中の「発掘された日本列島2017」で、八戸工大二高の生徒がボランティアガイドとして活動している。高校生に考古学に興味を持ってもらおうと、同館が高校側に打診した。9月18日までの会期中にボランティアガイドを務めるのは1～3年の78人で、部活動や夏期講習などの合間を縫って参加。事前に約2時間の研修を受け、覚えた知識で土器や土偶などについて詳しく解説し、来館者の好評を博している。</p>
(13)	<p>豪華寝台列車「四季島」 八戸駅に初お目見え</p> <p>JR東日本の豪華寝台列車「トランスイート四季島」が8月17日、八戸駅に初めてお目見えた。2017年度の特別コースの一環で停車。午前7時25分ごろ、新型列車を一目見ようと大勢が待ち受けるホームに、シャンパンゴールドの車体がゆっくりと入った。乗客34人は、横断幕と旗を持った関係者や市観光課職員ら約50人の歓迎を受けながら降車、種差海岸や蕪島を観光。地域住民が演じる祭り囃子でにぎわう鮫駅から、八戸線を守るレストラン列車「東北エモーション」に乗車し、食事や八戸ー久慈間の風景を満喫した後、八戸駅を出発した。</p>
(14)	<p>全国学力テスト 青森県の小学校 全教科で平均上回る</p> <p>文部科学省が公表した2017年度全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）の結果で、青森県の平均正答率は、小学校が国語Aで全国2位になり、全科目で全国平均を上回った。科目別の平均正答率を見ると、国語A79%（全国2位）、国語B59%（8位）、算数A80%（14位）、算数B48%（6位）。学習や生活習慣などを問う県内の調査では、小学生は授業の復習をする割合は77.2%（全国平均53.8%）、予習をする割合は49.6%（41.0%）、休日1時間以上勉強する割合は69.1%（57.3%）となるなど、家庭学習の習慣が全国平均を大きく上回った。</p>
(15)	<p>2016年度監査大賞 八戸市の公認会計士・倉成さんが受賞</p> <p>八戸市の公認会計士倉成美納里さん(50)が作成した、青森県の食育と食品ロスに関する財務運営の監査報告書が、2016年度の最も優れた監査報告書に贈られる「オンブズマン大賞」を受賞した。倉成さんは報告書で、県と関係団体の協力体制の強化、事業別収支予算と決算の重要性を挙げるなど、県に対し改善策も提案。「明確な視点に立ち、緻密で活用度の高い優れた監査」と高く評価された。県内の受賞は2人目。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	<p>29年ぶりの八戸出身関取 大成道が凱旋</p> <p>大相撲で、八戸市出身力士として29年ぶりに関取となった大成道（だいせいどう）(24)＝本名・笹山喜悌、木瀬部屋＝が十両昇進後、初めて地元で凱旋した。市出身の関取は1988年に引退した清乃洋（きよのなだ）以来。大成道は湊中、八戸水産高を経て角界入りし、2011年技量審査場所から約6年3カ月で関取になった。「十両になったのを機に、18年間過ごした地元で恩返しをしていきたい。地元を盛り上げられるように頑張る」と活躍を誓っている。</p>
(17)	<p>八戸拠点のロックバンド Re:Turn (リターン) 全国デビュー</p> <p>八戸市を拠点に活動する男性3人組ロックバンド「Re:Turn (リターン)」が8月8日、全国デビューを記念し、同市の伊吉書院西店内にあるCDショップ・フォーユーでサイン会を開いた。2008年に結成し、八戸市のライブハウス「ROXX」を中心に活動してきた。ファーストアルバム「Living」について、リーダーの伊藤正庸さんは「生きていくことの意味を考えた曲が多い。悩んでいる人の背中を押せたら」と自信を見せる。</p>

(18)	<p>JOC全日本高校ボウリング選手権 工大一高3年の西山さん優勝</p> <p>7月31日～8月2日に神奈川県で行われた「JOCジュニアオリンピックカップ第41回全日本高校ボウリング選手権」で、八戸工大一高3年の西山響さんが男子個人の部で優勝の快挙を成し遂げた。大会は3日間で12ゲームを投げ、西山さんは全ゲームで210点以上をたたき出す安定した投球で、最後まで1位を譲らなかった。昨春の県大会で敗れた悔しさから、「本当にたくさん練習した」という西山さん。「いつも通りのボウリングができて良かった」と栄えある結果を喜んだ。</p>
(19)	<p>スポーツクライミング全国大会小学生以下の部 関川さん(湊小4年)優勝</p> <p>八戸市立湊小4年の関川愛音(めろでい)さん(10)が、8月5日に埼玉県入間市で開催されたスポーツクライミングの大会「Base Camp Rock Festival2017」に出場し、小学生以下の選手が出場する「キッズリードミドル部門」で優勝した。関川さんは、母夕子さんの勧めで小学1年の時にボルダリングを始めた。平日は市内や階上町のジムで、週末は久慈市侍浜の岩場などを登り、練習に励んでいる。全国からトップレベルの選手が集まる中での勝利に、関川さんは「目標にしていた大会で勝ててうれしい」と喜んでいる。</p>
(20)	<p>佐々木則夫元なでしこ監督のサッカー教室開催 ～世界レベルの技術伝授～</p> <p>サッカー女子日本代表「なでしこジャパン」の佐々木則夫元監督が講師を務めるサッカー教室が8月19日、八戸市のダイハツスタジアムで開かれた。東日本大震災などの被災地支援事業の一環で、JUNON企画(埼玉)と同市サッカー協会の共催。参加した市内の小中学生約100人は、目を輝かせながら、世界で活躍した名監督の指導を受けた。元女子日本代表主将の宮間あやもサプライズゲストとして参加。宮間も交えたミニゲームも行われ、参加者はプロの技に感動しながら、ボールを追い掛け、果敢にゴールを狙っていた。</p>
(21)	<p>元八戸市陸上競技協会会長の工藤さん「安藤百福記念章受章」</p> <p>元八戸市陸上競技協会会長の工藤亮さん(71)が、横浜日産スタジアムで少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を受章した。同章は、毎年各都道府県から1人が選ばれ、主に小学生の陸上競技指導者に贈られる。工藤さんは、会長だった2011年に小学5、6年を対象にした「八戸陸上競技クラブ」を設立し、指導に尽力したことが評価された。八戸の選手が大会で活躍することも増え、工藤さんは「クラブ設立が選手、指導者の意識改革につながったのでは」と振り返る。</p>
(22)	<p>八戸の魅力伝える「馬淵川讃歌」 八戸市の音楽家・東さんが作曲</p> <p>八戸市下長6丁目の音楽家、東巨(あづまたくみ)さん(63)が市制施行88周年に合わせ、馬淵川を通して八戸の魅力を伝える「馬淵川讃歌」を作曲した。11月25日、同市のデーリー東北ホールでお披露目コンサートを開催するほか、インターネットなどで音源や映像を発信していく予定。歌詞には馬淵川の四季の趣、えんぶり、三社大祭、朝市などを盛り込み、八戸の“宝物”を表現。メロディーは青森らしい和の雰囲気をもとにしたオリジナルのほか、サンバ風のものも用意。「節目の今年に、全国に馬淵川の良さを伝えたい。共に発信する仲間、特に歌う人を募集したい」とPRする。</p>

平成29年9月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成29年9月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

八戸市を活動拠点としているアイスホッケーチーム「東北フリーブレイズ」のアジアリーグアイスホッケー2017-2018 シーズンが、9月2日（土）に開幕しました。

3年ぶりアジアチャンピオンを目指して、テクノルアイスパーク八戸でのホーム戦で開幕2連勝を飾り、幸先良いスタートを切っております。

9月24日（日）は、八戸市がスポンサーとなる市制施行88周年記念試合です。みなさま、ぜひチームカラー「青」のアイテムを身につけてご来場ください。

また、サッカーの「ヴァンラーレ八戸」は、現在、JFLセカンドステージの2位の好成績につけており、バスケットボールの「青森ワッツ」は、9月30日（土）がホーム開幕戦です。

みなさま、ぜひ地元スポーツチームの応援をよろしくお願いいたします。

■東北フリーブレイズ

<http://www.sposite.com/freeblades>

■ヴァンラーレ八戸

<http://www.vanraure.net>

■青森ワッツ

<https://aomori-wats.jp>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp